

産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禅洞診療所
 ◎ 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良穂穂878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
<http://zazendoh.town-web.net/>
第101号 2012.8.1
 毎月7日発行 産禅洞診療所 松井英介



第五福竜丸展示館の庭にある、言葉が刻まれた碑

原水爆の被害者は私を最後にしてほしい
 一久保山愛吉一

松井英介

久保山愛吉さんは1954年3月1日ビキニの海で西から昇る太陽を見ました。

そして、「死の灰」を身体の奥深くまで吸い込んだ愛吉さんは、半年後、掃らぬ人となりました。

「死の灰」は、アメリカ合衆国が南太平洋の海で行った水爆実験の結果でした。大量にまき散らされた放射性物質の小さな粒が、愛吉さんの細胞・DNAを傷つけたのです。

東京都江東区夢の島公園、「第五福竜丸展示館」の庭にそっと置かれた碑には、愛吉さんの言葉が刻まれています。

第五福竜丸乗組員23人の7割ががんでいのちを奪われました。死亡時平均年齢52歳。東電原発大惨事を経験した今、愛吉さんの言葉をつぎのように読み替えるべきだと、私は感じています。

「核の被害者は私を最後にしてほしい」。

マグロ漁船に乗るとき19歳だった大石又七さんは、自らもがんを背負い、初めて授かった子は死産で障害がありました。その後普通に生まれた娘さんへのいわれのない差別を乗り越え、又七さんは各地の子どもたちに語りかけています。

日本列島全体が「死の灰」に覆われた今だからこそ、ビキニ事件に学べと。



訪れた人々からの願い・折り鶴



第五福竜丸エンジン



2012.07.21, 第五福竜丸展示館
 事務局長・安田さんと